

【教育報告】**長崎純心大学英語情報学科における情報教育の概要と成果****吉 原 将 太**

A Summary and Result of Information Studies
at the Department of English and Information Science
of Nagasaki Junshin Catholic University

Shota YOSHIHARA

要 約

2001年3月に長崎純心大学人文学部に英語情報学科が開設され、2016年度までに、教育効果の向上を目指して数度のカリキュラムの見直しが行われてきた。本稿では2016年度現在の英語情報学科における情報系科目のカリキュラムを学習・教育目標によって細分類し、各科目の主な学習内容や科目間の学習の繋がりを示す。また、情報教育の成果の客観的な指標として、Microsoft Office Specialist の資格試験や上級情報処理士資格の取得状況を示す。

キーワード：カリキュラム、情報教育、情報処理リテラシー、資格

1. はじめに

2001年3月に長崎純心大学短期大学部の英米文化科が閉科され、同年4月、長崎純心大学人文学部に英語情報学科が増設された。著者は、英語情報学科開設時のカリキュラム立案者の一人として関わり、また、学科開設時から英語情報学科の情報教育に携わってきた経緯から、約15年間の実績に基づき2016年現在の情報系科目に関するカリキュラムの概要と教育成果を報告する。

2. 英語情報学科の全体的なカリキュラムの概要¹⁾

長崎純心大学人文学部のカリキュラムは、「基礎科目」「基幹科目」「応用科目」の3科目群で構成されている。基礎科目は、人文学部共通で開講されている科目群で、主に1～2年生で履修する。基幹科目は、各学科が目指す目的を達成するために必要な科目が開講されたもの、つまり、学科の特色・専門性のある科目群である。応用科目は、大学における教育研究活動のまとめである卒業研究を遂行し、その研究成果を卒業論文としてまとめていくための科目群が開講されてい

る。

英語情報学科の基幹科目は、「英語コミュニケーション・スキルの向上」、「情報コミュニケーション・スキルの向上」、「英語による情報収集および情報発信スキルの向上」、「コミュニケーションの理解」、「言語と文学の理解」、「グローバル社会の理解」、「長崎学研究」、「キャリア等関連科目」の7つの科目群で構成されている（表1参照）。基幹科目は、多様な科目が縦横に体系化されて開講されているため、学生各自の勉学の目標、資格取得、研究テーマなどを考慮して、教養と専門のバランスを考えた履修をするように指導されている。

英語情報学科の教育の特色は、英語力および情報処理力を高める際にも双方の知識・技能が学習効果を高めること、さらには英語と情報を組み合わせた授業を展開することで、その実践力・応用力を習得していくことを狙っていることである。また、英語と情報の分野にとどまらず、グローバルな視点で物事をとらえ、グローバル社会を生きていくうえで必要な知識と教養を身につけることができるよう、多様な科目が開講されている。

3. 英語情報学科の情報系科目に関するカリキュラムの概要

英語情報学科の情報系科目の学習・教育目標は、『コンピューターやインターネットなどの情報に関する実務的レベルの知識と、オフィスソフトやマルチメディアソフトの高度なスキルを習得し、人との繋がりを意識しながら、あらゆる場面でそれらの能力を活用できる人材を育成すること』である。それを実現するための情報系基幹科目は、学科全体のカリキュラムの内、「情報コミュニケーション・スキルの向上」、「英語による情報収集および情報発信スキルの向上」という科目群（表1参照）に分類されている。これらの情報系の基幹科目と基礎科目について、開講学年、必修科目または選択科目の違い、各科目で習得する主な知識・技能の内容を表2に示す。

これらの情報系科目は、学習・教育目標によって細分類すると、「情報処理の基礎」、「マルチメディアコンテンツの活用能力」、「プログラミング能力」、「情報検索能力」、「データ管理・データ分析能力」、「応用能力」に分類することができる。それぞれの科目間の繋がりを示したカリキュラムマップを図1に示す。このように、知識を体系的に学習しながら実務で活かせる情報処理能力の習得を可能としたカリキュラムとなっている。

英語情報学科のカリキュラムは、「全国大学実務教育協会²¹」が認定する「上級情報処理士³¹⁴」資格のカリキュラムに対応しており、2001年度の学科開設時から協会から課程校として認定を受けている。英語情報学科のほとんどの学生が「上級情報処理士」資格課程を履修している。

表1 英語情報学科の全体的なカリキュラム一覧

[illegible]

表2 英語情報学科の情報系科目カリキュラム一覧

	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎科目	必修 情報処理リテラシー (PCの基本操作・Wordによる文書作成)	情報処理概論 (情報処理全般の知識)						
	選択 情報文化論 (マスメディアの情報文化と社会におけるメディアの役割)			文献検索法 (文献の検索法と書誌情報の記述方法)				
必修	情報処理中級A (Excelの基礎)	情報セキュリティ (セキュリティと様々な情報検索法)	情報発信表現論 (ホームページ作成)	情報処理中級B (Accessの基礎)	情報検索 (卒業論文作成のための学術文献収集の方法)	マルチメディアコミュニケーション論 (様々な技術を駆使した英語のホームページ作成)		
	英語情報コミュニケーションI (英語でコンピュータの活用方法を学ぶ)			英語プレゼンテーション (PowerPointを用いた英語のスライド作成とその発表)	英語情報データベース (テキストデータベースの構築と分析)			
基幹科目		画像処理演習 (フォトレタッチ、画像の加工)	英語情報コミュニケーションII (英語の雑誌の作成)	プログラミング論 (JavaScriptによるプログラミング)	プログラミング演習I (Excel VBAによるプログラミング)	プログラミング演習II (Visual Basicによるアプリケーション作成)	情報文化特講 (各時代の情報文化の特徴とインターネットの情報文化)	
		情報処理演習 (Excelの実践演習)		メディアアイニング リッシュ (英語のビデオ作成)	データベース演習 (Accessの実践演習)	統計情報処理演習 (Excelを用いた統計データ分析)		
選択						ビジネス・コンピューティング (ビジネス系演習)		

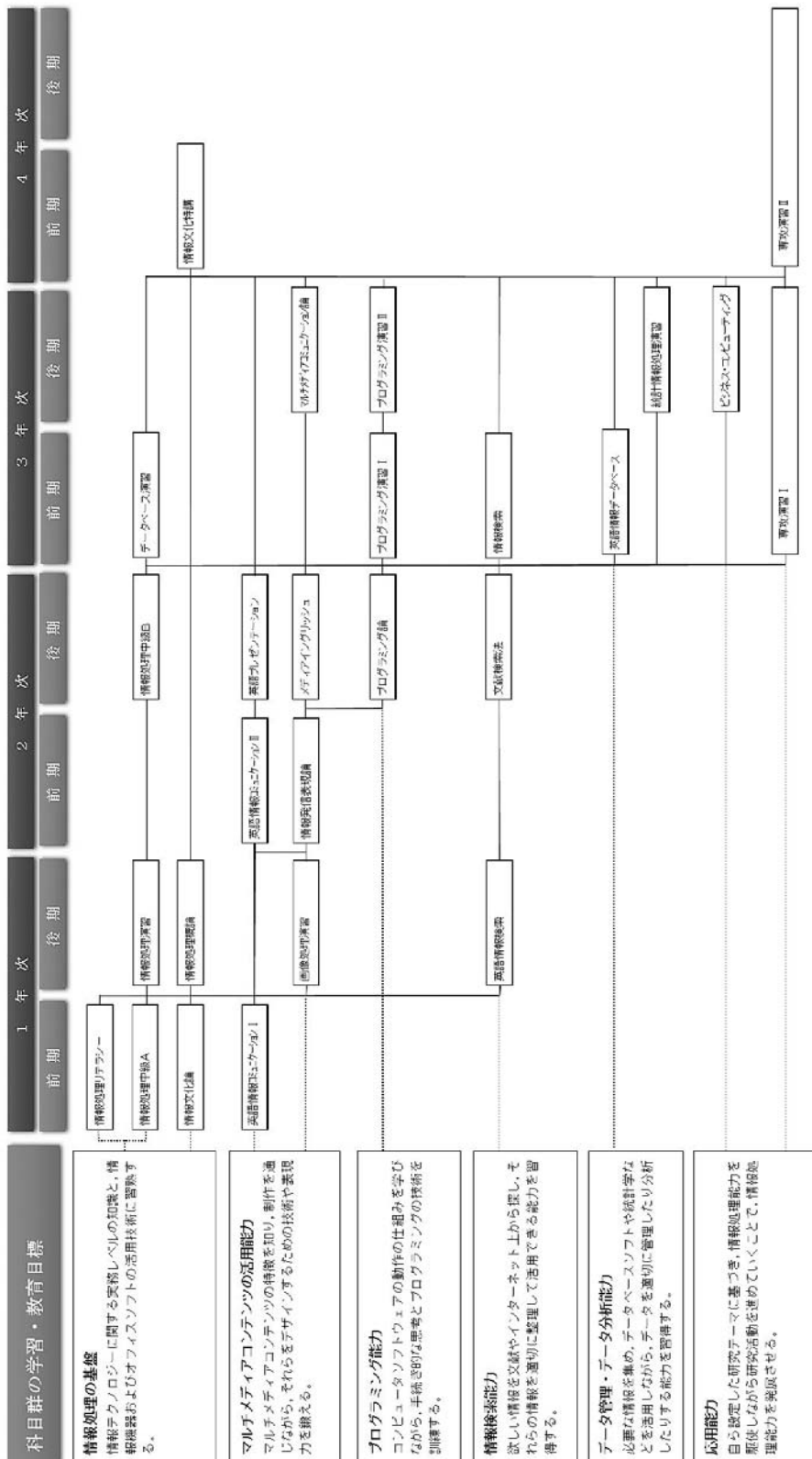


図 1 英語情報学科の情報系科目に関するカリキュラムマップ

4. 英語情報学科における情報教育の成果

長崎純心大学では、個々の科目の教育の成果については、担当の教員それぞれが学生の成績や学生による授業評価、教員相互の授業参加による意見交換等によって確認し、授業改善の取り組みがなされている。英語情報学科における情報系科目についても、それらの取り組みによって授業の質の向上が図られていることは明らかであるが、カリキュラム全体の教育成果を検証するのは難しい。そこで、部分的な検証にしかならないが、英語情報学科では、授業の内外で情報関係の資格試験対策のサポートをしていること、資格試験には客観的な合格基準が設定されていることから、今回は、学生の情報系資格の取得状況について報告する。

英語情報学科では、1年次前期に、「情報処理リテラシー」と「情報処理中級A」を必修科目として設けている。「情報処理リテラシー」では、パソコンの基本操作から始まり、タッチタイピング、インターネット検索、電子メールの利用方法、文書作成等が主な学習内容である。「情報処理リテラシー」の到達目標を「Microsoft Office Specialist (MOS)⁵¹ Word に合格できる程度の技能と知識を習得すること」としており、その試験対策を講義内容に含めている。毎年、「情報処理リテラシー」の受講直後にその資格試験を受験することを強く勧めており、2016年度入学生(1年生)37名(休学者を除く)については、2016年8月までに37名全員が「MOS Word 2013」に合格した。一方の「情報処理中級A」では、表計算ソフトのExcelの基本技能を習得することを目的としている。「情報処理中級A」の講義では、「MOS Excel 2013」の試験対策を4回ほど行い、その後、各自で試験勉強を重ねて資格試験に挑戦するように勧めている。その結果、2016年度入学生(1年生)は、2016年12月10日現在(入学後約8ヶ月経過時)において26名(70.3%)が「MOS Excel 2013」に合格した。

2年次後期には、「情報処理中級B」を必修科目として設けており、「MOS Access」の試験対策を講義内容に含めている。「情報処理中級B」の受講直後に、その資格試験を受験することを強く勧めている。2014年度入学生は、講義受講後に70%(21名)の学生が「MOS Access 2010」に合格した。英語情報学科では、卒業までに全員が「MOS Word / Excel / PowerPoint / Access」の4つの資格試験に合格することを目標としている。英語情報学科の第1回生(2001年度入学生)から2015年3月卒業(2012年度入学生)までの学生について、これらの合格者(有資格者)の割合を表3に示す。

「Microsoft Office Specialist (MOS)」は、世界200以上の国と地域で実施されている世界共通の国際資格である⁵¹。日本でMOS資格試験を運営している(株)オデッセイコミュニケーションズによると、日本では、1998年の試験開始から約18年を経て、国内の累計受験者は380万を超え(2016年9月20日現在)、一般パソコンユーザー向けの資格試験としては最大規模のIT資格となっている。本学は、2005年6月1日にMOSの試験会場校に認定されたが、その後、指導体制が整っていくにつれ、多くの学生が受験し合格するようになった。2009年度入学生においては、全員が「MOS Word / Excel / PowerPoint / Access」の4種類の資格試験に合格した。

表3 英語情報学科の Microsoft Office Specialist (MOS) の合格者(有資格者)の割合

MOS の種類	2001年度 入学生	2002年度 入学生	2003年度 入学生	2004年度 入学生	2005年度 入学生	2006年度 入学生
Word	79.1% ¹	65.1% ¹	88.4% ¹	57.9% ¹	79.2%	100.0%
Excel	90.7% ²	65.1% ²	72.1% ²	47.4%	33.3%	12.2%
PowerPoint	2.3%	32.6%	14.0%	34.2%	72.9%	78.0%
Access	48.8%	25.6%	32.6%	23.7%	47.9%	26.8%
Word Expert		23.3%	39.5%	73.7%	72.9%	39.0%
Excel Expert	9.3%	30.2%	37.2%	76.3%	91.7%	92.7%

MOS の種類	2007年度 入学生	2008年度 入学生	2009年度 入学生	2010年度 入学生	2011年度 入学生	2012年度 入学生
Word	97.7%	100.0%	100.0%	100.0%	97.1%	97.1%
Excel	95.3%	94.0%	100.0%	100.0%	97.1%	88.6%
PowerPoint	65.1%	84.0%	100.0%	100.0%	58.8%	45.7%
Access	100.0%	96.0%	100.0%	98.0%	100.0%	97.1%
Word Expert	9.3%				14.7%	25.7%
Excel Expert	30.2%				11.8%	22.9%

1 「日商 PC 検定⁶文書作成 3 級」合格者を含む

2 「日商 PC 検定データ活用 3 級」合格者を含む

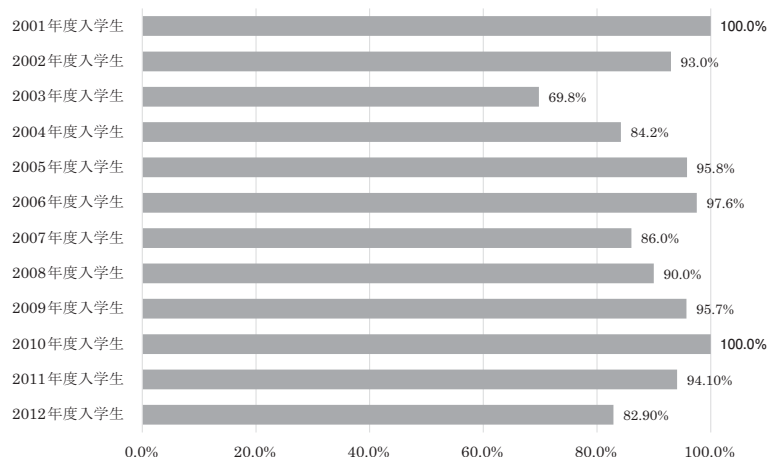


図2 英語情報学科の「上級情報処理士」資格認定者の割合

3章で述べた通り、英語情報学科のカリキュラムは、「全国大学実務教育協会^[2]」が認定する「上級情報処理士^{[3][4]}」資格のカリキュラムに対応しており、英語情報学科のほとんどの学生が「上級情報処理士」資格課程を履修している。英語情報学科の第1回生(2001年度入学生)から2015年3月卒業(2012年度入学生)までの学生について、資格認定者(有資格者)の割合を図2に示す。

図2において、2003年度入学生の資格認定者の割合が「69.8%」と他の年度よりも低くなっているが、これは、課程履修登録時に「上級情報処理士」課程を履修することに自信がなく、下位

資格の「情報処理士」課程の方に登録した学生が7%いたことが原因の一つである。年度により学生の資格取得に対する温度差があるものの、2003年度入学生を除いてはいずれも80%以上の学生が「上級情報処理士」に認定され、2001年度および2010年度の入学生については、全員が認定されている。

より高度な情報処理の習得を目指す学生については、授業で学んだことを延長して「IC3^[7]」「VBA Expert - Excel VBA Basic^[8]」「Adobe Certified Associate (ACA) Photoshop / Illustrator^[9]」「ITパスポート試験^[10]」「基本情報技術者試験^[11]」などの試験を受験すること勧めている。受験希望者が多い場合は対策勉強会を実施し、少ない場合には個別にサポートしている。これらの資格試験の合格者は毎年数名から10名程度で多いとは言えないが、授業内で学んだことをしっかりと定着させたい、発展させたいという学習意欲が引き出された学生がいることの表れであると考え。

5. おわりに

英語情報学科は2001年3月に長崎純心大学人文学部に開設され、2016年度までに、教育効果の向上を目指して数度のカリキュラムの見直しを行っている。本稿では2016年度現在の英語情報学科における情報系科目のカリキュラムを学習・教育目標によって細分類し、各科目の主な学習内容や科目間の学習の繋がりを示した。

著者は、大学での情報教育は、単に情報機器やソフトウェアの活用能力を習得することが一番の目的ではないと考えている。大学での教育・研究活動では、様々な分野の学問や研究を通じて視野を広げ、理解力・創造力・表現力を身につけていくもので、その際にいかに情報処理能力を活用できるかが重要となる。しかしながら、パソコン活用のスキルが大学での学習を助け、また、社会では仕事を効率的に進めるのに役立つ。ゆえに、英語情報学科では、情報機器やソフトウェア活用のスキルアップにも力を入れている。その結果、卒業までに多くの学生が「MOS Word / Excel / PowerPoint / Access」の4種類の資格試験に合格し、また、「上級情報処理士」の資格認定者の割合も高いことを示した。学生によっては、英語情報学科の情報系科目の受講によって、様々な資格試験にも挑戦しようという意欲が高められ、また、資格取得を通じてさらに学習意欲が高まり、大学の講義の理解度が高まるという好循環ができています。

今後の主な課題として、2点が挙げられる。一つは、多くの学生が基礎的な資格試験に合格できるほどの知識や技能を習得するものの、資格試験に合格することが目標となっている学生もいるため、そのような学生は資格試験に合格した後の忘却が早く、知識や技能を実践に役立てきれずにいることである。そのため、現在のカリキュラムにおいては、実践的内容の演習の比重を高くしているが、あらゆる場面で情報処理スキルを活用できる人材の育成となるよう、各科目担当教員が講義内容を良く考えて取り組む必要がある。もう一つの課題は、学生の多様性に対応することである。大学入学時に既に情報処理の基礎力がある学生もいれば、そうでない学生もいる。また、学習した内容を定着させることができなかった学生が次の段階の学習について来られない

状況が生じ、それらの学生を対象にした講義内容にすると、よく理解している学生のモチベーションが下がり、学習の機会が減ることにもなる。そのため、意欲的な学生の対応と、繰り返しの学習が必要な学生への対応を同時に考えた講義内容を考える必要がある。

参考資料

- [1] 長崎純心大学「平成28年度 Campus Guide 2016」(2016)
- [2] 「全国実務教育協会」(<http://www.jaucb.gr.jp/>)
- [3] 全国実務教育協会「上級情報処理士」(<http://www.jaucb.gr.jp/student/license/joho.html>)
- [4] 全国実務教育協会「上級情報処理士[®]」(<http://www.jaucb.gr.jp/student/license/2013joho.html>)
- [5] (株)オデッセイコミュニケーションズ「Microsoft Office Specialist(MOS)」(<http://mos.odyssey-com.co.jp/>)
- [6] 日本商工会議所「日商 PC 検定」(<https://www.kentei.ne.jp/pc>)
- [7] (株)オデッセイコミュニケーションズ「IC 3」(<http://ic3.odyssey-com.co.jp/>)
- [8] (株)オデッセイコミュニケーションズ「VBA Expert」(<http://vbae.odyssey-com.co.jp/>)
- [9] (株)オデッセイコミュニケーションズ「Adobe Certified Associate(ACA)」(<http://adobe.odyssey-com.co.jp/>)
- [10] 情報処理推進機構「IT パスポート試験」(<https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/>)
- [11] 情報処理推進機構「基本情報技術者試験」(<https://www.jitec.ipa.go.jp/>)

(2016年10月17日 受理)